

## 小学校教員を目指す大学生に対する防災紙芝居の製作と上演

植木岳雪

帝京科学大学

Making and Showing a Picture Story on Disaster Prevention  
by Undergraduate Students of the Future Elementary School Teachers

Takeyuki UEKI

Teikyo University of Science

キーワード：防災、紙芝居、アクティブラーニング、大学生

### 1. はじめに

毎年のように、日本のどこかで地震や洪水などの自然災害が発生している。自分の命は自分で守る「自助」が重要であり、子どものうちからその意識を身につけておく必要がある。ここ数年、小学校においては、教科横断的な活動、ICTの利用、地域との連携など、さまざまな新しい防災教育が試みられている<sup>19)</sup>。しかし、防災教育を実施していない小学校の割合は約20%もあり、防災教育の年間実施回数は1～3回程度と少なく、各教科による防災教育はほとんど行われていない<sup>10)</sup>。また、小学校1・2年の生活科では、教科書に安全の意識や安全な行動の記述はあるが、自然災害の危険性の記述は極めて少ない<sup>11)</sup>。子どもが自然災害発生時におけるその場の状況を捉え、危険を予測するためには、特に、小学校の低学年児童に対する防災教育の充実が望まれている。

幼稚園や保育園の幼児に対しては、紙芝居は普遍的な教材である。幼児に年齢が近い小学校の低学年児童に対しても、紙芝居は適用できる<sup>12)</sup>。また、保育者養成課程の大学生は、紙芝居を製作することによって、紙芝居は紙の表に絵、裏にセリフが書かれており、セリフは一つ前の紙の裏に書かれていることや、紙芝居の紙は観客から見て右から左に抜くといった紙芝居の特性を意識するようになり、紙芝居のねらいや内容を幼児に伝えるために、より効果的に上演できる<sup>13)</sup>。それに加えて、紙芝居のテーマを考えることによって、保育の「ねらい」を意識できるようになり、その「ねらい」に適切な紙芝居を製作できる<sup>13)</sup>。したがって、小学校の低学年児童に対

する防災教育としても、教員が防災をテーマとする紙芝居を製作し、上演することが有効と思われる。そこで、今回、小学校教員を目指す大学生に、防災をテーマとする紙芝居（防災紙芝居）を製作させ、上演させるというアクティブラーニングを実践した。

### 2. 防災紙芝居の製作と上演

防災紙芝居の製作と上演には、著者が担当する選択専門科目「理科演習」の4回分の授業を充当した。帝京科学大学教育人間科学部小学校コースの11名の学生が、その授業に参加した。学生の学年は2年生が10名、3年生が1名であり、性別は男子が9名、女子が2名であった。

1回目の授業では、著者が既存の防災紙芝居を上演した後に、各学生に同じ紙芝居を上演させた。それにより、紙芝居の仕組みや読み上げ方を理解させた。そして、各学生に防災紙芝居を5枚程度の紙で製作するように指示し、紙芝居全体のストーリー、コマ割り、イラスト、セリフなどの構想を練らせた。紙芝居のテーマは、津波が9名、地震が2名であった。

2回目と3回目の授業では、白紙にイラストを描かせたり、セリフを書かせた。マジックや色鉛筆を用意し、イラストに色をつけたり、縁取りをさせた。そして、厚紙の表裏に、それぞれイラストとセリフの白紙をのりで貼らせた。これらの作業には、学生はかなり苦勞していた。図1に、学生が製作した津波と地震をテーマにした紙芝居の例を示す。

4回目の授業では、各学生に自分で作成した防災紙芝居を読み上げさせた（図2）。他の学生には、



図1 学生が製作した津波と地震をテーマにした紙芝居の例  
 本来、紙芝居では、1枚目の紙の裏に5枚目の紙のセリフが書かれる。  
 ここでは、わかりやすくするため、1枚目の紙のイラストとセリフをセットにした。

その感想を言わせた。全体として、学生は終始楽しそうであった。

### 3. 学生による評価

4回目の授業の最後に、学生にリフレクションシートを記入させた。紙芝居の製作、紙芝居の上演、紙芝居を防災(教育)に使うことについて、コメントを3つまで自由に記述できるようにした。

表1に、紙芝居の製作と上演に関する代表的なコメントを示す。紙芝居の製作に関しては、製作全

体、イラスト、セリフについてのコメントに分けられた。24個のコメントのうち17個では、イラストを描くことやセリフを考えることの難しさが挙げられたが、さまざまな工夫も見られた。「絵を描く、枠をマジックで描く、厚紙に貼る、文章を考えるとこの工程が、とても大変だと感じた」のように、紙芝居を製作する過程の意義も見いだされた。紙芝居の上演に関しては、上演全体、読み上げ、動かし方や音についてのコメントに分けられた。24個のコメントのうち13個では、読み上げの難しさが挙げられた



図1 学生が製作した津波と地震をテーマにした紙芝居の例（続き）

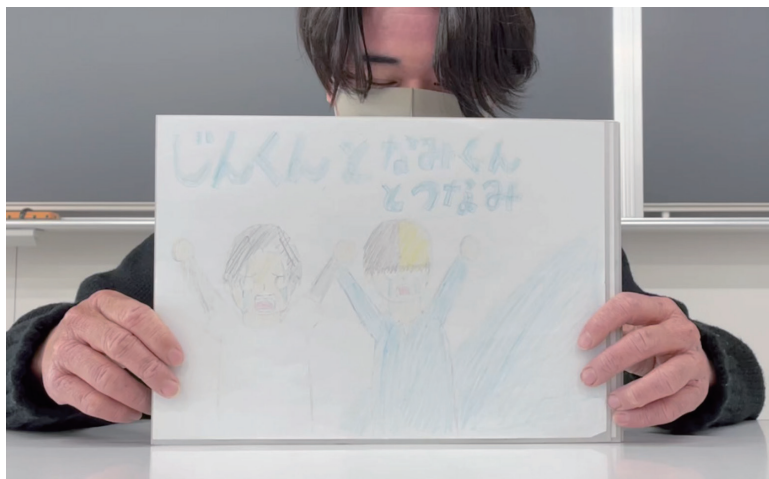


図2 紙芝居を読み上げる学生の様子

表1 紙芝居の製作と上演に関する学生のコメントの例

---

1. 紙芝居の製作に関する記述

---

全体について

絵を描く，枠をマジックで描く，厚紙に貼る，文章を考えるとこの工程が，とても大変だと感じた。  
パッと見で何をしているのか，どういう場面なのかがわかることに重点を置いて，作成した。  
津波の怖さをどのようにして伝えるか，難しかった。  
自分で作って津波の怖さを改めて知った。

イラストについて

イラストが慣れないせいで難しかった。  
絵を描くのがとても大変だった。  
絵が下手で伝わるか不安だった。  
絵を描く場所を気をつけた。  
色塗りが目立たなくて困った。  
1枚1枚がつながって見えるように，絵を描くのが大変でした。  
縁取りをした。

セリフについて

セリフを考えるのが難しかった。  
物語を考えるのが大変だった。  
セリフがナレーターの部分を考えるのが難しかった。  
小学生が好きなオノマトペを使った。  
文章の字は読みやすくするように，きれいに大きめに書いた。  
紙芝居では1枚紙の裏に5枚目のセリフを書かなくてはいけないのが少し難しい。

---

2. 紙芝居の上演に関する記述

---

全体について

紙芝居を人前で読むのが初めてだったので，恥ずかしかった。  
少し楽しかった。  
とても順調にできた。  
他の人の紙芝居がおもしろかった。

読み上げについて

噛まずに読むのが難しい。  
何回も間違えてしまうので，大変だった。  
噛むか，セリフを間違えた時に，ごまかすのが難しかった。  
噛まないように意識しすぎて，心を込めて読めなかった。  
感情を込めて読むのも大変。  
人物によって読み分けるのが難しかった。  
焦って早口になってしまった。  
滑舌を良くするようにした。  
うまく抑揚をつけるのが難しかった。  
強弱に気をつけた  
登場人物になりきった。

上演時の工夫について

紙芝居を揺らして，地震を表した。  
みんな揺れや波の音を表現していて，参考にさせてもらった。

---

が、読み上げの工夫や充実感も挙げられた。これは、紙芝居は演じるものであり、そのために表現や造りにさまざまな工夫が凝らされている<sup>14)</sup>、という紙芝居の特性を感じたものと思われる。

表2に、紙芝居を防災（教育）に使うことについての代表的なコメントを示す。20個のコメントのうち12個では、紙芝居はわかりやすい、楽しい、集中しやすい、なりきれ、揺らすことができるなど、紙芝居ならではの長所が挙げられた。また、紙芝居は小学校の防災教育に適当であり、地震や津波に加えて、その他の自然災害から身を守るために使えることが挙げられた。特別活動や総合的な学習の時間など、各教科・科目以外での活用も示唆された。

このように、学生は紙芝居の製作と上演の難しさと楽しさを感じつつ、小学校での防災教育への活用を考えることができた。

#### 4. おわりに

帝京科学大学教育人間科学部小学校コースの11名の学生に、防災をテーマとする紙芝居（防災紙芝居）を製作させ、上演させるというアクティブラーニングを実践した。学生は、自ら紙芝居を製作し、

上演するという体験を通して、小学校での防災教育への活用を考えることができた。この体験を生かして、将来、小学校教員として、特に低学年児童に対して防災教育を行う際に、紙芝居を有効なツールとして使うことが期待される。

これに加えて、防災紙芝居は、日本人の小学校の低学年児童だけでなく、日本語に堪能でない外国人の広い年齢層の子どもに対しても、防災意識の向上や防災知識の普及啓発に役立つと思われる。日本には、現在300万人近い外国人が在留しており、10万人弱の子どもが学校に通っている。防災紙芝居は、日本在住の外国人や外国の学校の子どもに対しても活用が試みられているが<sup>15-17)</sup>、まだ端緒にすぎない。今後、学校における防災紙芝居を用いた防災教育の実践を行い、日本人の小学校の低学年児童や外国人の子どもに対して、その効果を確かめたいと思っている。

#### 謝辞

学生からは、製作した紙芝居と上演時の写真の掲載について、承諾を得た。匿名査読者のコメントによって、本報告は改善された。以上の方に深く感謝

表2 紙芝居を防災（教育）に使うことについてのコメントの例

#### 紙芝居を防災（教育）に使うことについて

##### 紙芝居の長所

楽しく防災について理解できるので、良いと思った。  
 教育的にも良いと思う。  
 絵を使うのでわかりやすいと思った。  
 短く、わかりやすく教えられるのが良い。  
 セリフがあるので、なりきって楽しむことができると思った。  
 子どもが集中してくれるから良い。  
 小学生（低学年）の関心をひきやすく、とても良いと思う。

##### 紙芝居の防災教育への活用

小学生にも使えるので、うまく授業で使いたい。  
 地震の授業の導入で使えると思った。  
 津波の怖さを知ってもらえる。  
 津波がきた時にどう対策するかを考えさせられる。  
 様々な状況で描けるのがいいと思う。  
 他の防災も作って上演したい。

##### 紙芝居の防災教育以外への活用

学活や総合の時間で使えると思った。  
 説明するとつまらないけれど、教育にするならば、物語だと物足りないと思った。  
 それでも、紙芝居ならつかみは良いと思った。

いたします。

## 引用文献

1. 佐藤 健, 桜井愛子: 学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造: 大崎市立岩出山小学校の実践事例. *安全教育学研究*, 18: 83-91, 2019.
2. 三井一希, 塩島諒輔, 佐藤和紀, 堀田龍也: 小学校理科におけるプログラミングによるアイデアの具現化を取り入れた防災教育の授業開発. *コンピュータ&エデュケーション*, 48: 76-81, 2020.
3. 今井亜湖, 吉富友恭, 埴岡靖司: 防災教育における映像教材の使用に関する事例研究. *日本教育工学会論文誌*, 44(Suppl.): 193-196, 2021.
4. 稲垣 忠, 坂本新太郎, 石井里枝, 新妻浩平: スマートグラスを用いた防災教育VR教材・遠隔配信プログラムの開発と実践. *日本教育工学会研究報告集*, 2021(1): 115-120, 2021.
5. 常名剛司: 小学校低学年におけるCLIL授業の試み: 小学校英語教育と防災教育の統合実践. *静岡大学教育実践総合センター紀要*, 32: 267-272, 2022.
6. 城戸 楓, 仲矢史雄, 片桐昌直: 遊びながら学ぶ防災プログラムにおける学習効果の持続. *日本教育工学会論文誌*, 44: 377-386, 2021.
7. 近藤誠司: 校内放送を活用した持続的な防災教育プロジェクトの影響評価. *防災教育学研究*, 1: 83-92, 2021.
8. 河野 崇: 総合的な学習の時間における小学校防災教育の内容と特徴 -教科横断的な防災教育の展開に向けて-. *大阪キリスト教短期大学紀要*, 62: 15-33, 2021.
9. 宮崎千紗, 生田英輔: 小学校高学年を対象としたコンピュータゲームを活用した室内安全教育プログラムの検討. *都市防災研究論文集*, 8: 49-54, 2021.
10. 柴田真裕, 田中綾子, 船木伸江, 前林清和: わが国の学校における防災教育の現状と課題 -全国規模アンケート調査の結果をもとに-. *防災教育学研究*, 1: 19-30, 2020.
11. 吉本直弘, 松原諄弥, 川村教一: 小学校生活科教科書における自然災害に関する内容の分析. *日本科学教育学会研究会研究報告*, 35: 61-64, 2021.
12. 清水美智子: 紙芝居「演じることと語ること」: 紙芝居のもつ特徴と効果を探る. *研究紀要-名古屋柳城短期大学*, 29: 39-48, 2007.
13. 鬢櫛久美子: 教育メディアとしての紙芝居: 保育者養成課程における取り組み. *研究紀要-名古屋柳城短期大学*, 35, 15-24: 2013.
14. 山本聡子: 保育者養成における紙芝居に関する研究 -保育内容言葉の観点から-. *名古屋柳城短期大学研究紀要*, 40: 189-199, 2018.
15. 兵庫県立柏原高等学校インターアクトクラブ2年・3年生部員: 丹波市在住ニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動と多言語紙芝居による防災教育の推進. *兵庫地理*, 62: 127-132, 2017.
16. 兵庫県立柏原高等学校インターアクトクラブ2年・3年生部員: 地震・豪雨対策防災多言語紙芝居による防災教育の推進. *兵庫地理*, 63: 133-139, 2018.
17. 八木浩司, 村山良之: ネパールの学校における防災教育実践 -ヒマラヤ山麓の斜面・土石流災害を対象として-. *山形大学教職・教育実践研究*, 9: 51-60, 2014.